

といった感想を多数頂くことができました。

なお今回の学術大会は、独立行政法人国立病院機構東京医療センター統括診療部長（医療情報部長・外科医長併任）・磯部陽先生を実行委員長とし、東京での開催となりました。平成二十七（二〇一五）年六月六日にはITヘルスケア学会の任意団体から一般社団法人ITヘルスケア学会として法人化されました。その意味では、今学術大会は記念すべき法人化第一回目の大会ともなりました。ご多忙の中、ご参加いただいた皆様、基調講演等でご登壇いただきました招聘演者の皆様、ならびに開催に当ってご協力ご支援いただいた関係機関の皆様、特に肥後医育振興会の皆さまには深く感謝申し上げます。

第九回日本禁煙学会学術総会報告

第九回日本禁煙学会学術総会会長

熊本市市民病院首席診療部長・神経内科部長
橋本洋一郎

二〇一五年十一月二十一日〜二十二日に市民会館崇城大学ホール（熊本市市民会館）と国際交流会館で第九回日本禁煙学会学術総会を開催いたしました（<http://jscc2015.unin.jp>）。市民団体であるくまもと禁煙推進フォーラム（私が代表）による学会開催は大変でしたが、参

加者とスタッフで一〇〇名を超え、大盛況で達成感の高い学会でした。

「タバコフリー・キッズin熊本」、「きれいな空気くまもと」プロジェクト、脳卒中週間の世界禁煙デーの市民公開講座（脳卒中協会と共催、三井住友海上あいおい生命保険株式会社の脳卒中 Report に記事掲載 http://www.senshinryo.net/stroke_c07/index.html）、五回の禁煙治療セミナーなどの関連事業も開催できました。

学会のテーマは「喫煙と生活習慣病ータバコとNCDー」としました。二〇一一年九月に国連においてNCD（non-communicable disease、非感染性疾患）対策を国際的に推進していくことが採択されています。①タバコの使用、②不健康な食事、③身体活動不足、④アルコールの有害使用の四つのリスクが、①がん、②循環器疾患（脳卒中や心疾患など）、③糖尿病、④慢性呼吸器疾患（COPD など）の4つのNCDを引き起こします。タバコの使用は全てのNCDの発症に関与しています。脳卒中が「apoplexy」→「stroke」→「brain attack」と変わったように、「成人病」→「生活習慣病」→「NCD」とキーワードを変えて、疾患の発症予防・再発予防を啓発しては

思っています。

理事長講演、会長講演、二つの特別講演、四つのシンポジウム、二つの教育講演、二つの特別企画、五つの共催セミナー、禁煙治療セミナー、市民公開講座

などで禁煙学を多面的に学んで頂いたと思います。一般演題も過去最多の一四三演題があり、活発な議論もなされました。

カリフォルニア大学 Professor Stanton Chan の特別講演、NCDのシンポジウムではWHOの Dr. Dongbo Fu の講演、朝日新聞の錦光山さんの特別講演などは大きなインパクトを参加者に与えたようです。特別企画Ⅰ「アフタヌーンセミナー（ナースのための禁煙スイーツセミナー）」、特別企画Ⅱ「防煙授業のノウハウおしえます」、禁煙治療セミナー「動機づけ面接」などの教育的なセッションのニーズが高いことが分かりました。二〇一六年十月二十九日〜三十日の第十回日本禁煙学会学術総会（東京開催）へ上手く繋げることができたのではないかと自画自賛しています。

なお学会初日にはくまモンも第一会場に来て、熊本の誇る禁煙キャラクターの「すわんけん」、「すわんぬ」、「禁煙戦隊ソツエンジャー」も一緒にくまモン体操をしました。また初日の夜にはホテル日航熊本で会員懇親会を行い、山鹿灯籠が大変好評でした。また学会前日に熊本城本丸御殿で開催しました会長招宴も国内外の先生に貸し切りのライトアップされた夜の熊本城、武将隊のお出迎え、本丸御殿での本丸御膳、ザ・わらべの舞踊などを堪能頂けたと思います。熊本での学会開催では熊本城とくまモンの存在は大変大きいと思います。

この学会開催をバネに熊本での禁煙活

動をさらに活発にしていきたいと思っています。

最後になりましたが、肥後医育振興会におかれましては、本学会へ多大なるご支援をいただきまして心から感謝申し上げます。お陰様で本報告のように無事学会を終えることができました。今後も皆様のご指導ご鞭撻をよろしく願っています。



2016年の東京大会と熊本大会のスタッフが一緒に学会終了直後に写真撮影。熊本の禁煙キャラクターの『すわんけん』『すわんぬ』『禁煙戦隊ソツエンジャー』も登場。

第五十一回日本移植学会総会の報告

熊本大学大学院生命科学研究所小児外科学・移植外科学分野教授 猪股裕紀洋

平成二十七年十月一日から三日、ホテ